

委員所感に対する回答要旨（新潟県）

坂本 啓 委員 （質問対象者：新潟県、柏崎市、刈羽村）

避難計画について、昨年の地域の会にて避難計画のアンケートのような資料を拝見したところ、ほんの一部ではありましたが、ペットの扱いについて記載がありました。会の中でも質問をさせていただきましたが、「人命が最優先」とのことで、それは重々承知なうえですが、何か対策のようなことは考えられているのか、お聞かせいただきたいと思えます。

（回答）

- 県としましても、災害時における人と動物との絆を守る仕組みづくりは重要であると考えております。
- 県地域防災計画では、市町村の責務として、住民が動物と一緒に避難することができるよう配慮することとしており、各市町村の防災計画等でも、動物同行避難の周知や受入れなど、ペットの保護対策を規定しております。
- 県としましては、県が作成した「ペット同行避難所運営マニュアル」の活用や行政関係者等の研修会により、動物同行避難の体制整備を支援するとともに、住民への周知に努めるよう市町村に働きかけるなど、引き続き取り組んでまいります。

本間 保 委員 （質問対象者：新潟県）

- ・ 県が依頼した阻害要因調査の結果について

県は、負荷をかけたシュミレーションなので、実際より長い時間が想定されたと述べているが必ずしもそうとも思えず、可能か否かという問題はあるにしても、この結果を受け入れた対策を講ずるべきなのではないか

（回答）

- 原子力災害時避難経路阻害要因調査については、原子力災害時の避難経路において、どのような場所で渋滞が発生するかを把握し、より円滑に避難するための対策を検討することを目的として実施しました。
- この調査において、北陸自動車道への進入路の整備、避難経路上の道路や橋梁等の耐災害性の強化、早期の道路除雪などの円滑な避難のための改善案が示されました。
- 県といたしましては、その実現に向けて、国や関係市町村、関係機関と連携し、しっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

高橋 新一 副会長 (質問対象者：新潟県)

・避難計画について

県の避難委員会が456点の論点、問題点等を指摘し委員会の幕を閉じた避難委員会では、5年間にわたって議論してきたが課題や論点を指摘してきただけで実効性の見通しの立つようなものが全く示されなかった。

そもそも原発の避難計画は、規制委員会（または国の専門的役割を負った組織）が、責任をもって策定すべきものであるが、実現不可能を予測して立地自治体に丸投げして責任を逃れてきた。

新潟県は、456点もの課題が何ら解決されないまま、規制基準がクリアになった時点で再稼働に同意するのか。

県民のいのちと暮らしが無防備なままで原発が存在し続けることに大きな不安を抱かざるを得ない（テロ対策以上に重要な問題であると考える）

専門性のある中立的な専門家に、県民、市民を加えた新たな検証委員会を立ち上げてもう一度「実効性ある避難計画」について検証をやり直すよう切望する。

再稼働に前のめりになることなく、実効性のある「避難計画策定の現実性の可否」についても議論して欲しい。

(回答)

- 実効性のある避難計画等についてですが、避難委員会の報告書で示された論点については、課題以外にも、防災対策上の留意点、福島原発事故時の状況等に関する認識、委員個人の意見なども含まれております。
- まずは報告書で示された内容を整理し、県が取り組むべき事項について、責任を持って対応を検討するとともに、東京電力や国等が所管する事項について、しっかりと対応するよう求めてまいりたいと考えております。
- 県といたしましては、こうした取組の結果を適宜避難計画に反映することによって、その実効性を高めてまいりたいと考えております。
- また、原発再稼働に関する議論については、3つの検証の結果が示された後に始めたいと考えております。

三宮 徳保 会長 （質問対象者：新潟県）

地元立地地域である柏崎市刈羽村では、言葉は違いますがKK原子力発電所の再稼働について前向きな意思表示をされていると私は理解しています。知事としては具体的議論、判断への工程は、いつになれば示されるのでしょうか？

（回答）

- 柏崎刈羽原発の再稼働についてであります。現在、県が行っている福島原発事故に関する3つの検証の結果が示された後に、条件や手続きを含め、議論を始めたいと考えております。
- なお、3つの検証の結果について、広く県民の皆様と情報共有するとともに、評価をいただき、併せて、現在、技術委員会で行っている柏崎刈羽原発の安全対策の確認結果も踏まえ、リーダーとして責任を持って、結論を県民の皆様にお示しします。